

さてしかし、あの日パツと咲いて散つていつた、あの虎の尾さわぎは、果してその真相は何であろうか。はたしてウミトラノオにはどれだけの駆虫作用があるのだろうか。その有効成分は何だろうか。どういうメカニズムで作用するのだろうか。これらの問題はサントニンがあるなしにかかわらずもう一度研究されるべきものであろう。

(山形大学文理学部)

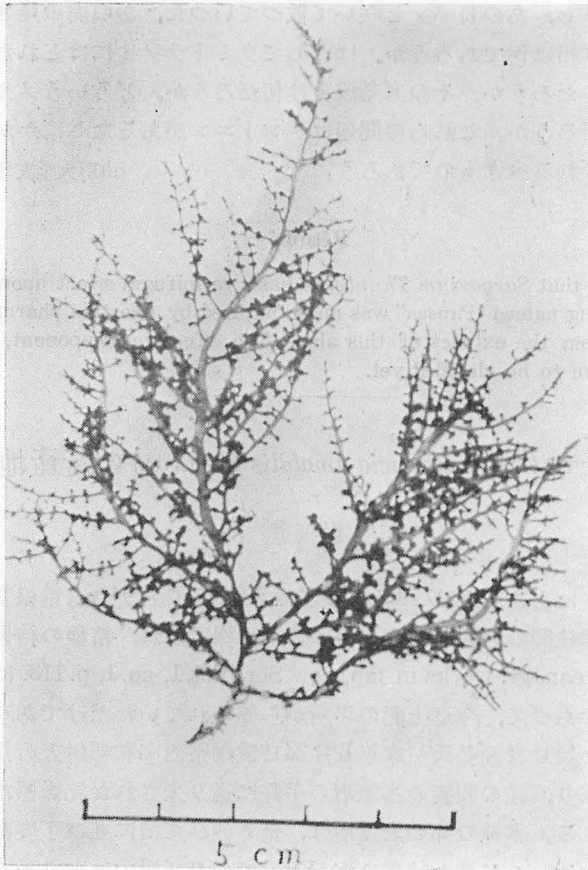
Résumé

It is said that *Sargassum Thunbergii* has a vermifugal effect upon ascarids. In 1948, a drug named "Pansea" was manufactured by a certain pharmaceutical company from the extract of this alga. The effective component, however, does not seem to be clarified yet.

シマソゾ (*Laurencia amabilis* YAMADA) の新産地

山田 幸男

シマソゾは去る昭和27年7月並びに28年5月八丈島八重根及び洞輪沢に於いて干満線間の岩礁上で筆者等に依つて採取され、精検の結果新種として Rec. of oceanogr. works in Jap. new Ser. Vol. 1, no. 1, p. 113. に記載発表されたものであつて、今迄上記の場所から知られていただけであつた。然るに最近本会々員野村義弘氏が本年6月24日愛媛県西宇和郡伊方町川永田室ノ鼻に於いて採り、種の同定の為筆者の手許に送り来された乾燥標本は明かに本種と思われる。本種の体の表皮層は、長く伸びて横に並び丁度柵状組織の様になつている。この様な特徴は本邦附近産のソゾ属では余り多くなくクロソゾ (*L. intermedia* YAM.), パピラソゾ (*L. papillosa* GREV.), タカサゴソゾ (*L. palisada* YAM.) と本種のみ位であつて何れも Palisadae という Section に入れられる。標本は3枚あるが内1枚のは八丈島産のものと体の太さも似て比較的繊細であるが、他の2枚はそれよりも太く稍ミツデソゾ (*L. Okamurai* YAM.) に似た外形を呈するが四分孢子、嚢果共疣状の末端小枝上に生ずる点がミツデソゾの夫れとは一寸ちがう。無論体の構造をしらべれば上述の表皮層の様子で直ちに区別はつく。尚、シマソゾの体細胞膜上には半月形の肥厚部は見られない。大体今迄見た処では表皮細胞が柵状に並ぶものにはミツデソゾ其の他に見られる半月形の肥厚部は見られないので、この点は面白



Laurencia amabilis YAMADA x I.

いことと思う。又シマソソの末端小枝の密に出る個体は幾分パピラソソの外
形に近くなる傾向がある。従つて今迄幾分疑問をもつてパピラソソに当てら
れていた標本の内には或は本種が混じておりはしないかという気がする。若
しそれが事実とすると本種の分布はもつともつと広がるのではないかと思
われる。尚、参考の為に上記愛媛県産の標本の写真を掲げた。

(北海道大学理学部植物学教室)